西川ゼミナールの活動

実地から考え実践するランドスケープデザインの学び、コロナ禍での取り組み

西川ゼミナール／ランドスケープデザイン研究室
メンバー：井上櫻・奥あゆみ・亀井菜々美・沈克明・田代将汰・谷口颯新・塚本佳奈・森山愛弓・
吉原紗季・和田颯斗・石田紘大

１．西川ゼミナールの活動の目的

西川ゼミでは、より実践的なランドスケープのデザインを身につけることを目的に以下の２つを据えている。
①ランドスケープデザインをフィールドで考え・実践することで学ぶ。社会・人間・自然の関係の在り方を考えながら学ぶ。
②社会・環境貢献できるデザイン力と技術力を持ったランドスケープアーキテクト（以下 L.A）・社会人へ成長するための基礎的な素養を養う。

２．課題と方法

ゼミナール活動の目的を確認したうえで、ワークショップを行い、これらに指導教員西川先生の考える「デザインの学び」を合わせ、ゼミの目的を達成するための課題と方法を次のように設定した。

（１）インターネットツール活用能力の習得

全世界的な新型コロナウイルス感染拡大の社会状況のもと、昨年までと全く違った環境下でゼミ活動が求められることとなった。そこで、今までの PC の技術の学びに加え、web 会議ツールや SNS、インターネットツールを活用しながらデザインや全体の活動を行うこととした。

（２）複数の空間制作によるデザイン能力の向上

デザイン行為は一般的に計画・設計を指すが、それだけを学ぶのでは、短期間で本質的なランドスケープのデザインは身に付かないと考えた。そこで、計画・設計だけでは終わらせず、様々な表現方法を用いながら、実際に空間が立ちあがるプロセスまでを経験することで、短期間でより実践的なランドスケープのデザインを理解できるようになると考え、以下の２つを設定した。

１）平面や立体で空間をとらえる能力の習得

ゼミメンバー全員が日常から、スケッチ・エスキスなど自分の手で描く習慣を身につける。また CAD を中心に PC の利用、模型作り等様々な表現方法を学び実践し、平面および立体で空間をとらえる能力を養う。

２）施工・管理・現場での能力の習得

実際に仮組を含め、設計した空間を施工する。造園・ランドスケープの実地を通して、現場での施工の方法を学びながら、スケール感や設計と実際の空間のギャップを体感し考え、設計へとフィードバックさせることでより良いデザインのあり方を考える。

（３）レイアウト技術・プレゼンテーション能力の習得

ランドスケープデザインは関係する人の共感を得ることで成立する。考えたデザインをよりわかりやすく、より正確に伝えることが必要である。DTP の活用や、発表の機会を増やすことで、より伝わりやすいレイアウト技術やプレゼンテーション能力を身に付ける。

（４）コミュニケーション能力の習得

ランドスケープデザインは人との関りを持つことで成立している。そのためデザインプロセスの中で多様な人とのコミュニケーションが求められる。様々な空間制作やまちづくり活動、勉強会等で企業や地域住民との交流を行うこと、そして会話力や人脈の形成にも取り組む。

（５）社会人としての基礎的な能力の習得

造園家・L.A として成長するためにはもちろんのこと、日常生活や、礼儀、姿勢、感謝の気持ちを持つとともに周りを見渡すことのできる観察力を持ち、周囲への配慮ができることは社会人への素養でありそれを意識しながらデザインやゼミ活動に取り組む。

（６）点検・評価

以上（１）～（５）の課題と取り組み・活動ごとの評価の自己点検表を作成し、各自およびゼミ全体で評価を行う。また、協働した団体、個人へヒアリングも行い外部からの評価も行う。さらに、全国造園デザインコンクール等へ参加を行い作品の評価も得る。

３．2020 年度のゼミナールの活動

（１）ウィズコロナを意識したインターネットの活用

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う政府の非常事態宣言により、対面授業の開始が５月の末まで遅れたが、ゼミでは Zoom、Google Meet、Facebook、Messenger、YouTube、Line 等の web 会議ツールや SNS など複数のツールを活用し活動を行った。

１）課題図書と動画視聴等による社会問題の認識

自粛期間を含め個人での活動の一つとして４冊の課題図書の講読や、YouTube での動画視聴を行い、チームに分かれてオンラインでのディスカッション、講評を繰り返した。まとめは Facebook にアップし共有した。

２）製図とまちなみ計画の課題の取り組み

自粛期間、製図基礎技術向上のためトレース及び着色を行い、出来上がった図面はスマートフォンのスキャナアプリを使用し Messenger で一枚ごとに指導を受けた。さらに住宅地の計画課題ではチームに分かれオンライン

上でブレーンストーミングや議論を行い、住宅地のコンセプトとデザインコードをまとめ、パワーポイントでプレゼンテーション動画を作成し、YouTube にアップした。

３）インターネットを用いた遠隔勉強会

遠隔授業・会議に慣れてきた６月から、Zoom を使用して遠隔で講師を招き勉強会を企画し、デザインの知識を深めた。（**表 - 1**）

４）遠隔・オンラインでのお料理ゼミの開催

長期間外出自粛を含め通常のように学生間で直接会うことが出来なかったため、ゼミ間でコミュニケーションを取る方法の一つとして、「うどん」や「カレー」などテーマに沿った料理を作り、オンラインで５回食事会を行った。作った料理については Facebook ページで作成意図、プロセスなどの紹介を行うことで学びにつなげた。

（２）勉強会・見学会の企画と参加

（１）- ５）で記述したように、インターネットを用いた勉強会を行った他、**表 - 1** のような勉強会や見学会・まち歩きの企画や参加などを行った。

表―１：研究室で企画、参加した勉強会・見学会

開催月	講師	所属会社・見学場所	遠隔	内容
3月	**井上剛宏**	㈱植芳造園		景をつくる
6月		三菱アルティウム		小さなデザイン　駒形克己展
7月	**片木孝子**	空間創研	遠隔	FD：カタギな生き様
7月	**勝野 靖弘**	カツ／風景デザイン室	遠隔	FD：ひろしま　はなのわ2020見てきました
8月	**金澤弓子**	東京農業大学	遠隔	FD：ランドスケープエコロジーの話～桜とか里山とか～
9月	**浅田英司**	デザインネットワーク	遠隔	FD：摂家者目線で見る福岡市内のランドスケープ事例
9月	**大杉 哲哉**	(株)アーバン設計	遠隔	FD：ピクニックとランドスケープin7ｲﾗﾝﾄﾞｼﾃｨ中央公園
10月	**竹林 知樹** **芳澤 利明** **山本 浩介**	Takebayashi Landscape Architects 株式会社デザインリンク JR九州コンサルタンツ株式会社	遠隔	これまでのしごと　これからのしごと
11月	**西川真水**			福岡の街歩き／大濠公園・舞鶴公園・
12月	**片木孝子**	空間創研	遠隔	歴史文化に寄り添う京都のランドスケープ
12月		久留米市田主丸町		植木生産地見学
12月	**卜部仁美**	アンドグリーン		福岡市植物園：花壇と宿根草について
1月	**西川真水**	西日本短期大学	遠隔	FD：花しるべ・一人一花の10年を振り返る

（３）ポスター、ポートフォリオ、名刺などの制作

コミュニケーションや自分たちの作品・活動を説明する道具として Illustrator などを活用して、各自名刺やリーフレット、ポスター、ポートフォリオを作成する時間をつくり、相手に伝わるレイアウトの向上に取組んだ。

（４）空間制作

デザイン技術の習得の中心となる空間制作は、今年度新型コロナウイルス感染拡大の影響により出展を計画していたイベントが中止、遠隔での授業期間などの関係もあり製作数が限定された。ここではゼミ決定後に先輩と参加した全国都市緑化ひろしまフェア、研究室で例年制作している国体道路花壇についての概要を記述し、４．において今年度計画、設計、施工と全てのフローを行った福浜キャンパス中庭デモンストレーション庭園を取り上げその流れを詳しく説明する。

１）第 37 回全国都市緑化ひろしまフェア

研究室では福岡市から依頼を受け、全国都市緑化フェアで福岡市自治体出展を行った。2020 年は、年度を跨ぎ広島で開催され、先輩が進めていた制作に参加した。ゼミ所属が決まる２月には概ね設計が出来上がっていたため施工準備段階から参加し、資料づくりや施工の手順を学びながら、現地へ赴き協働した福岡市一人一花推進課、福岡市造園建設業協会（以下市造協）の皆さんから社会人としての考え方等を学ぶ貴重な機会を得た。

２）国体道路花壇修景プロジェクト

天神の国体道路沿いの花壇制作を夏と冬の２回植え替えを行った。活動は西日本短大ランドスケープデザイン部（以下西短 LSD 部）、NPO 法人はかた夢松原の会や地域住民、国土交通省福岡国道事務所と活動を行っており、ただ単に花壇の植え付けではなく様々なコミュニケーションを行いながらのまちづくりとして活動を行った。新型コロナウイルスの感染拡大状況下であったため、1 回の参加人数を制限しながら、作業の日数を増やすなど、分散による密にならない活動の対策を行った。

写真－１：都市緑化フェア

写真－2：国体道路花壇

４. 実地での空間制作を通したデザインの学びの実例「福浜キャンパス中庭デモンストレーション庭園」

デザインから現地での施工までを行う実際の空間制作の流れを具体的に紹介したい。

例年西川ゼミでは、夏のオープンキャンパスに合わせ参加者に造園・ランドスケープのデザインを紹介するために、福浜キャンパス中庭にデモンストレーション庭園を制作している。今年度は自粛明けからデザインを開始し①オープンキャンパス、②学園祭、③発表会のために３段階で空間制作をデザイン修正と拡張工事を行いながら進めた。（**図 - 1**）

（１）デザインのリソースと課題

自粛期間からのディスカッションで「普段利用者が少ない中庭の活用を考える」「with コロナ時代のキャンパス生活。密を避けるための屋外空間の活用」「グリーンインフラとしての身近な緑の空間の在り方」の３つの視点を課題をとして取り上げ検討を進めていった。

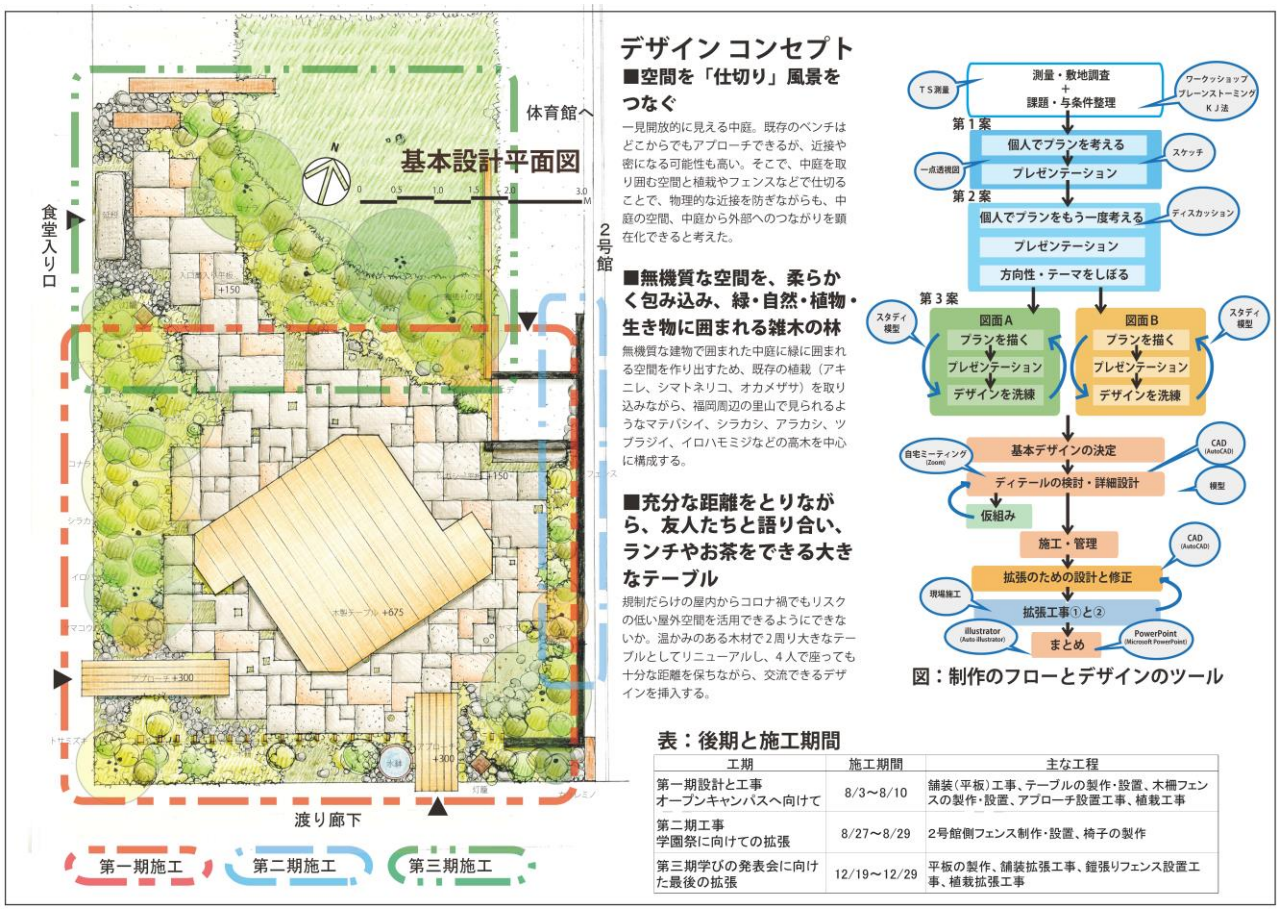
（２）敷地調査・与条件整理

初めに中庭の敷地の特徴を知るために敷地調査を行った。トータルステーションを使用し、敷地内外の高低差を拾い出し平面図を作成した。さらに作成した図面をもとに植栽や景観、現状での動線などを整理した。次に全員でワークショップを行い、敷地（中庭及び周辺）について評価点、問題点・課題点をまとめた。

また、中庭の活用について、どのようなプログラムが中庭に求められているか、ゼミ生以外の学生にも参加してもらいブレーンストーミングを行った。

（３）プランの検討から決定まで

調査・ブレーンストーミングで行った条件整理を共有したうえで、メンバーそれぞれで図面を描き起こし、ゼ



図：制作のフローとデザインのツール

表：後期と施工期間

工期	施工期間	主な工程
第一期設計と工事 オープンキャンパスへ向けて	8/3～8/10	舗装（平板）工事、テーブルの製作・設置、木柵フェンスの製作・設置、アプローチ設置工事、植栽工事
第二期工事 学園祭に向けての拡張	8/27～8/29	2号館側フェンス制作・設置、椅子の製作
第三期学びの発表会に向けた最後の拡張	12/19～12/29	平板の製作、舗装拡張工事、鎧張りフェンス設置工事、植栽拡張工事

図 - 1：福浜キャンパス中庭制作・デザインの概要

ミ内でプレゼンテーションを行い、意見の交換を行った（第一案）。その後、もう一度各自でプランを練り直し、再度プレゼンテーションを行い、プランと方向性を２つに絞った（第二案）。一案は、「中庭の中心の既存植栽地を活かしてその周りに休憩・交流空間を作り出す」プラン。もう一方の案は「既存の石ベンチを中心に空間を仕切りながら交流空間を作り出す」プラン。その２案を下敷きに２チームに分けて、エスキス、スタディ模型をつくりながらさらにデザインを進めた。（第三案）

今ここにあるべき場所の在り方、先輩方の作品などとの関係に加え、施工性、工期なども含め議論を行い「既存の石のベンチを改修し距離を保ちながら交流できる大きなテーブルを持つ空間を基本デザインとして決定した。ここまででゼミ生全員で描いた図面の数は、100 枚以上にのぼった。これらはオープンキャンパスで「設計プロセスの展示」として、模型やワークショップの成果、さらには実際に出来上がった空間と合わせてオープンキャンパス参加者に公開した。

最終的にデザインコンセプトを①空間を「仕切り」風景をつなぐ。②無機質な空間を、柔らかく包み込み、緑・自然・ 植物・生き物に囲まれる雑木の林。③充分な距離をとりながら、友人たちと語り合い、ランチやお茶をできる大きなテーブル。として（図―１）空間をデザインして制作を進めた。

（４）現地での施工と修正設計

１）ディテールの検討・詳細設計

基本デザインの決定後、各部位ごと使い施工のための詳細設計を行った。各部ごとに実寸模型を段ボールで作成したり、モックアップを木材で作成したり、ディテールをメンバーで共有し、スケール感や設計と実際に出来上がる空間のギャップをなくすように努めた。

２）オープンキャンパスへ向けて／第一期工事

敷地内の高低差の調整は、かさ上げ材としてスタイロフォームを用いた。使用した平板は倉庫に眠っていた歴代の先輩の遺産を探し出し、現地で組み合わせ、何度も検討し CAD で設計に起こした。石のベンチ・テーブルは、夏は熱く、冬は冷たいため利用者が少ない。そこで距離を保ちながら交流や食事で使えるよう 3m50ｃｍ×2m 70ｃｍの大きな木製テーブルで覆った。同時並行で、アプローチと設置、周囲の廊下や建物と中庭のテーブル空間を仕切る縦ルーバーの木柵を取り付けた。最後に色やバランスを見ながら高木、低木、下草を植栽した。植栽は３期工事でも行ったが、高木はカシ、シイ、ホルトノキ、コナラ、イロハモミジなどこの周辺でも見ることのできる在来種を中心に選択した。

３）学園祭に向けての拡張／第二期工事

２号館側（東側）の教室と庭との関係が課題として挙げられ、相互間で柔らかく仕切りながら、つなげるフェンスを拡張整備した。テーブルスペースを日常的に使ってもらうために、椅子の増設も行った。

４）学びの発表会に向けた最後の拡張／第三期工事

敷地北西部にある入り口からの動線を取り込み、強化し食堂入口と庭園の関係をつなげていくために、拡張デザインを行った。平板は全体のデザインをもとに、セメ

ントを練って自作した。鎧張りの壁、平板の配置・大きさはそれぞれ段ボールで実寸模型を作成しながら検討を重ね現場での判断し決定した。また机の高さも実際に食事したり、勉強したりする状況を実寸で試し、天端の高さを10㎝上げることが適切と考え修正工事を行った。

５）作業ミーティングと情報発信

コロナ感染拡大の中、遅くまで学内に残って作業をすることができなくなったため、作業のミーティングを、Web会議ツールを用いて自宅で行い、Facebookに1日の活動内容をアップすることとした。

（５）ポスター作成とコンクールへの出展

内容をA1サイズポスターにまとめ、日本造園建設業協会主催の全国造園デザインコンクールに出展した。これによりできたことできなかったことを再確認することも出来た。

５．2020年度ゼミナール活動の点検と評価

（1）外部からの活動の評価

日頃勉強会でお世話になっている設計事務所・コンサルタントや、まちづくり活動で協働した福岡市一人一花推進課、市造協、はかた夢松原の会、西川ゼミの卒業生の方々に、設定した5つの課題に対してヒアリングを行った。5つの課題の中でよかった点として「限られた空間を活かし機能を入れていた」「名刺が個性的だった」「リモートに慣れていた」など空間制作やレイアウト技術の向上などが挙げられた。反対に課題として主にコミュニケーション能力についての意見が多く、「社会人に話しかける様子が少なかった」「集団でいると私語が多い」「質問を積極的にしない」が挙げられた。

写真３－ヒアリングの様子

写真４－評価表の作成

（2）自らの活動の点検と評価

活動の評価は2.課題で設定した（1）～（5）の項目に対して、課題と取り組み・活動ごとの評価表を作成し項目ごとに、何がたことなどの視点でワークショップを行い、自己点検とゼミ全体の評価を行った。

1）インターネットツール活用能力に関して

新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛期間中、オンラインでのゼミ活動を行うために、Zoom、Google MeetなどのWeb会議ツールを活用し意識的に個人もツールを使うことで、これからの社会に対応するための能力を身に着けた。

2）空間制作によるデザイン能力に関して

①平面や立体で空間をとらえる能力に関して

AutoCAD、RIKCADなどのアプリケーション、手描きや模型作りなど多くの表現方法を活用し、デザインプロセスの中で平面だけでなく立体的な空間をイメージできるようになった。また、設計の段階で1/1のモックアップを制作し設計へとフィードバックさせることで空間をとらえる能力が身についた。

②施工・管理・現場での能力に関して

実際に自分たちで設計した空間を施工し、現場での修正も多く、現場対応能力を意識しながら作業することが出来た。作業後のミーティングでは一人ひとりが共通認識を持つ意識を高めた。施工を含めた制作活動によって、様々な視点から設計について検討・再点検することもでき、空間のデザインを認識し、考えることができた。

3）レイアウト技術・プレゼンテーション能力に関して

DTP等を活用することでポートフォリオやポスター、名刺などを制作し、多くの人に見てもらい評価してもらうことでレイアウトに対する意識と技術は向上した。しかし、プレゼンテーションや人前で話す機会がゼミ内でしかなかったことや、積極的に取り組むことも少なく現時点では口頭で伝える能力はまだまだ不十分だと感じた。

4）コミュニケーション能力に関して

まちづくり活動や勉強会など学外の活動では、コロナウイルス感染拡大の状況下だったが、対面ではソーシャルディスタンス、リモートでのコミュニケーションなど感染防止の策をとりながら、社会人や地域住民と交流ができた。しかし、ゼミ内の勉強会に対し、社会人との勉強会や交流では、発言や質問が消極的になり、自主的にコミュニケーションが取れていなかった。

5）社会人としての基礎的な能力に関して

ゼミの活動を通して学外で多様な人と交流したことで、マナーや礼儀など人としての基礎的なことを学んだ。しかし、遅刻や周囲への配慮などまだまだ個人で見直す課題があると感じた。

６．まとめ

ゼミ活動の2つの目的に対し、特殊な社会状況の中、新しい学び方を模索しながら、様々な人と交流し多様な表現方法を学んだ1年だった。実際に空間制作を自分達の手で行い、その中で社会問題や事例、自分たちの体験をもとに、空間の価値を考えるデザインプロセスの理解を深めることができた。しかし、L.Aに必要な基礎的な素養、社会人としてのコミュニケーション能力や礼儀などまだまだ強化すべき能力が多いと感じた。例年通りにいかないこともあったが、新しいことにチャレンジし、この1年間で学んだことは社会に出て活かされるよう、これからもL.A・造園家として成長していきたい。